

「(仮称) これからの滋賀県立図書館のあり方」について

【滋賀県立図書館が10年後に目指す姿】

- ★県民は、どこに住んでいても、誰もが、市町立図書館を通じて、県立図書館の資料・情報を迅速に受け取ることができる。
- ★県民は、県立図書館から、より専門的な資料・情報・レファレンスサービス等を受け取ることができる。

※これまでの市町立図書館への支援から、連携・協働へと転換し、市町立図書館へのバックアップ機能が県立図書館の中心的役割になっている。

【目指す図書館像実現のために重点的に取り組むこと】

- 1 県内各図書館の人・資料・情報をつなぐネットワークの整備・充実
 - ・市町立図書館の運営に関する助言・情報提供等の充実
 - ・司書の資質向上のための体系的な研修、交流
 - ・新しい課題に対する共同研究の実施
 - ・市町立図書館への協力貸出の迅速化
 - ・電子書籍・データベース等の共同利用の仕組みづくり
 - ・大学図書館、学校図書館等との連携・協働
- 2 すべての県民に向けたサービスの実施
 - ・市町立図書館を通じた県民への資料・レファレンスサービスの提供
 - ・障害のある人、高齢者、外国人など、誰もが使いやすいサービスの充実
 - ・インターネット等を活用した情報提供サービスの拡大
 - ・文化ゾーンの立地を生かした、読書とともに自然や芸術にも親しめる、豊かな時間を過ごせる場の提供

【その他図書館が取り組むこと】

- ・地域の課題解決に向けた情報提供・情報発信
- ・読書を通じた次世代の育成
- ・図書館サービスについての発信・周知

【参考】

1 策定の趣旨

県立図書館は、昭和 55 年の開館以来、利用者が求める図書資料の着実な提供と市町立図書館の支援を業務の中心に据えて取り組んできた。その間、県立図書館を取り巻く状況は大きく変化し、様々な課題に直面している。

また、新しい出版の形態である電子書籍の動向など、今後の情報化社会の進展も視野に入れた県民への資料提供のあり方についても検討する必要がある。

こうした状況をふまえ、平成 28、29 年度の 2 か年をかけて、今後の 10 年を見据えた県立図書館のあり方を検討し、これからの県立図書館の姿を明確にする。

2 これまでの経過

県立図書館の現状と課題、期待される役割等を把握するため、県政モニター、県立図書館の利用者、市町立図書館利用者および関係機関等にアンケートを実施した。また、関係機関・団体から意見を聴取するとともに、他府県の動向等も調査した。

これらの結果等を基に図書館協議会で協議し、教育委員会、常任委員会に諮り、平成 29 年 3 月に県立図書館の現状と課題について整理した。

3 現状と課題

- ・全市町に市町立図書館が設置され、県民は地元の市町立図書館を主に利用している一方、県立図書館のサービスに対する認知度は低い。
- ・県立と市町立図書館が協力して、県民への図書サービスを提供し、蔵書・貸出等について高い水準で維持しているが、市町立図書館・県立図書館ともに資料費が減少し、貸出数は減少傾向にある。